長崎市中心部「内町」の歴史を紹介

住民ら小冊子制作

長崎市中心部「内町」の歴史などを地図で紹介する小冊子　＝長崎市築町

長崎市中心部の「内町」（魚の町、栄町、賑町、築町、江戸町、出島町）の住民らが、地域の歴史などを地図で紹介する小冊子を作った。1571年の長崎港開港後、大村藩主・大村純忠によってまちづくりが図られたが、現在はマンション建設などが進み、移住者も多い。町の歴史を知ってもらい、住民の一体感をもたらすのが狙いだ。

内町の各町は、毎年10月の「長崎くんち」の踊町でもあり一致団結して祭りなどの行事に臨む。住民間の交流が少なくなる中、〝歴史〟を対話の手段にして、町の活性化につなげたい考えだ。

小冊子は、市の「まちぶらプロジェクト」の一環で昨年９月ごろから制作を始め、３月下旬に完成。縦約30㌢、横約60㌢を折り畳んだ形。内町の地図に県庁跡地（江戸町）や、かつて地元住民の井戸端会議の場だったという今下町共用井戸（賑町）など、暮らしに根付いた建物などを写真を交えて紹介している。約4000部を内町の全住人と市内全小中高などに配る予定。

制作した「長崎出嶋・内町活性化協議会」の中嶋恒治発起人代表（71）＝築町＝は「町の歴史に興味を持つ〝入り口〟にしてほしい」と期待を込めた。

（酒井環）